

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4290100017
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム 秋桜
訪問調査日	平成 20 年 9 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4290100017		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム 秋桜		
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市滑石6丁目4番3号 (電 話) 095-856-2940		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	10.3 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 4 階建ての 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有() 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	160 円	昼食 410 円
	夕食	210 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年 8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いとう内科、長崎北病院、むらかみ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の中にあり、明るくゆったりとした雰囲気の中で、「ゆったり 楽しくありのままに」という理念のもと、利用者一人ひとりのペースを大切に、支援を行っている。

近隣には中学校や小学校、保育園などがあり、児童生徒をボランティアとして受け入れたり、ホームが地域の行事に参加したりして交流を深めている。また、今年は、中学生のボランティアに車椅子の操作の指導なども行い、さらに交流を深めていくようにしている。

また、同じ建物の中で通所介護、訪問介護、ショートステイなどの事業も実施されており、このようなサービスの延長で入居される方も多いため、連携を図りながら職員との関わりを深めていき、入居もスムーズに行われている。

今後も、地域密着型サービスとして地域との関わりを大切にしながら、利用者のよりよい生活の支援への取り組みが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をもとに、理念に地域密着型としての視点を取り入れるよう、改善に取り組んでいる。また、行事などに地域の方の参加を呼びかけたり、小学生とのふれあいを増やしていくことも今後考えており、より地域とのつながりを広げていく取り組みに努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が一人ひとり自己評価を行い、それぞれの意見を管理者がとりまとめて自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回の開催では参加者が集まりにくかったため、市に相談し3か月に1回開催している。開催時には、事業、外部評価の結果や取り組みについて説明し、参加者から意見をもらっている。ホームの前にあるマンションは、ホーム設立の際反対があったが、管理人に推進会議に参加してもらうようになり、認知症への理解や行事等について周知してもらい、マンション住民の意見などを会議にて伝えてもらっており、パイプ役となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から家族が面会に訪れた時などに、意見や不安等を聞くように心がけている。家族との親睦会も開催し、家族同士または職員と一緒にいろいろと話をすることができ、家族の意見を聞くよい機会となったため、今後も実施していく予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児の訪問や、小・中学生のボランティアの受け入れを行っており、今後、車椅子操作の指導等を行うことで、さらに利用者との関わりが持てるような取り組みを検討している。また、近隣のマンションの消防訓練に施設長が参加しており、昨年からの地域の祭りへの出店に取り組むなど、地域との連携を深めていくよう努力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり 楽しく ありのままに」という理念を掲げ、利用者を一人の人として尊重し、地域との関わりを大切にしながら、一人ひとりに合わせた介護をすることを心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づきその人らしい生活が送れるように、日々、利用者のペースに合わせた支援や、利用者との関わりの中からのニーズを把握するよう心がけている。また、家族からも利用者の趣味などの情報を得て、利用者一人ひとりのニーズを引き出す努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、中学校のボランティアや保育所の園児の訪問を受け入れたりしている。中学生には、車椅子の操作などを指導し、実際に利用者に関わってもらえるよう取り組むようにしている。また、昨年か町内のお祭りに模擬店を出店するなどの取り組みも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価において、理念に地域密着型サービスとしての特色や視点を取り入れるという課題があり、改善に向けて取り組んでいる。また、自己評価については、まず職員がそれぞれに行い、職員全員で意見を出し合って取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回の開催では、参加者全員の出席が難しいため、市に了解を得て3ヵ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、外部評価の報告、事業の説明、ホームでの利用者の様子などの報告を行い、参加者からの意見を得ている。実際に会議で出された意見を受けて、地元の小学生との交流が実現したこともあり、事業所の運営やサービス向上に会議を活かすことができている。		

長崎県 グループホーム秋桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で意見を出してもらったり、市の窓口へ手続きに出向いた際にやり取りをしたりしている。また、法人内で介護予防教室の委託を市から受けている。運営推進会議や日ごろのやり取りをきっかけに積極的な連絡、相談などの働きかけを心がけるとより効果的ではないだろうか。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日ごろの様子等を報告している。また、毎月利用料請求書を送る際に、日ごろの様子を記した手紙を同封している。利用者が買い物に行く時や家族が受診に同行できない場合は、現金預かりをしており、出納帳に記載し家族へ報告している。また、職員の異動についても、口頭や書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会などの時に、要望や不安などを職員に話しやすいように声かけなどを心がけている。また、昨年親睦会を開き、利用者、家族、職員と一緒に食事をして、職員と家族、家族同士でアドバイスや相談をしながらホームの状況を共有することができ、家族からの様々な意見を聞く機会となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、併設施設もありやむを得ない場合もあるが、今のところ利用者への影響はなく、異動する職員、異動してきた職員は自然に受け入れられている。	○	今後も、利用者へのダメージのないよう、異動が発生した場合に、利用者にとっての馴染みの関係が急に途絶え、新しい関係や環境に身をおくことのないよう、異動前から少しずつ馴染みの関係が築けるよう十分な配慮を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や勤務年数に応じて研修を選び、参加させている。研修参加後には、会議を利用し報告会を行うとともに報告書の回覧を行っている。	○	研修後は、報告書の作成や会議での報告にとどまらず、他の職員に対して伝達講習を行うなど、再度勉強してきたことを確認し、他の職員にも周知できる取り組みを期待したい。また、法人内の研修を盛んに行っているため、グループホーム独自の研修や法人内のグループホーム同士の研修実施の検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡協議会においては、今後市内をブロックにわけて顔合わせを行うこととなり、管理職だけでなく職員も順番に参加できるよう計画している。	○	管理者だけでなく、職員も同業者との交流が持てるような取り組みを計画しているため、他のホームとの違いや自分のホームの優れている点など、参考にできるよう積極的に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ建物の中にある通所介護やショートステイ、訪問介護の事業所の利用者とは顔合わせの機会があり、入居するときに顔馴染みになっていることがある。そうでない利用者には、職員が自宅に出向くなどの取り組みを行うとともに、利用者が安心できるような居場所を作ることを行なっている。	○	他のサービス利用がない方が入居する場合、職員配置等の問題もあり、訪問も1回程度にとどまっているが、馴染みの関係を築くためにも、利用希望者にホームに遊びに来てもらうなど、入居前に少しでも多く関わることができるよう工夫を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の様々な昔話、経験談を聞きながら、経験のあることや得意だったこと、現在できること等を見極めるように努め、料理の味付けや漬物の漬け方、年中行事などを教えてもらっている。また、興奮しやすかったり、不穏になりやすかったりする利用者については、馴染みの職員がさりげなく対応し、利用者の喜怒哀楽を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得ながら思いや意向の把握に努めており、お墓参りや礼拝、馴染みのお店、美容院等への外出等を支援している。また、利用者がすすんで行っている家事等を把握し、思いや意向として受け止め、利用者が気持ちよく生活できるような配慮につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会などを利用し、家族等からも情報収集するよう努め、アセスメントを十分に行っている。アセスメントした利用者一人ひとりのニーズに対して、どう援助していくかを考え介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のケア会議や毎日の申し送りの際に、利用者の日ごとの様子や言動を把握し、そこから、本人がどのようにしたいのかを常に考えて、職員間で話し合いを重ね、定期的に見直しを行っている。		

長崎県 グループホーム秋桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診やお墓参り、礼拝、買い物や美容院への外出、葬儀への出席など、家族と相談しながら職員が同行し支援している。また、音楽療法の先生を招いて音楽を楽しむなど、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、原則として家族が同行することになっているが、家族も高齢であったり、同行が難しい場合は、職員が対応している。また、体調が悪くなったときに往診してもらえる協力医を確保するなど、安心して医療を受けられる体制づくりに努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	取り組みたいという思いはあるが、看護師の配置もなく、現時点で重度化や終末期にすぐに対応することは難しい現状である。しかし、重度化した場合でも、他のサービス利用の申し込みを行うとともに、ホームでの生活が継続できるように主治医と連携しており、医療処置などが日常的に必要なことが予測される時点で家族と話し合いながらともに対応を検討している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で、排泄介助が必要な利用者についての申し送りの際の言葉などに配慮している。利用者の介助の際の言葉かけ等にも配慮しながら、さりげなく支援するよう意識を持ち、職員同士注意し合いながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや予定に合わせて支援しており、午後から通院する利用者には、一足先に昼食を摂ってもらえるようにしており、職員も一緒に食事を摂るようにしている。また、昼食後、居室では寂しいからと共用空間の和室で昼寝をする利用者があるなど、それぞれのペースや希望を大切に支援を行っている様子が窺える。		

長崎県 グループホーム秋桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、後片付けなどは、利用者が自分の役割として行っており、ごく自然に職員がお礼の言葉を伝えている。食事の前後も含めて楽しめるよう支援している。	○	現在、利用者には、職員が伝えるか、料理が出てくるまで献立がわからないようになっているが、食事を楽しみなものにするためにも、居間に毎日の献立を掲示するなどの工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回程度、午前中に入浴の時間を設けており、朝から一番風呂はぜひと、利用者に喜ばれている。回数は希望があれば対応している。	○	入浴の回数などについては希望に応じて対応しているが、今後、基本的な入浴頻度を検討し、さらに柔軟に対応できるよう工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事や掃除など、利用者がそれぞれに自分の役割として取り組んでいる。利用者は、梅干づくりなど昔の経験を活かし、職員に教えながら一緒に取り組んでいる。また、音楽療法を取り入れ、昔の歌を歌うなど、楽しみごとの支援も行っており、利用者の生き生きとした表情が窺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員配置の問題等もあり、毎日の外出は困難な状況ではあるが、4階のデイサービスの行事や近隣の保育園のお遊戯会に参加するなど、近場で楽しみを見つける工夫をしている。様々な外出の機会を増やせるよう、取り組みを検討している。	○	様々な外出の機会を増やすよう検討されているので、地域の行事や小、中学校の運動会などの情報を得て、積極的に外出の機会を捉えるよう取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は建物の2階にあり、利用者一人でのエレベーター利用は難しいが、ユニット入り口の戸は鍵をかけることなく、対面して配置しているユニット同士の行き来は自由にできるようにしている。しかし、夜間は防犯上の配慮としてユニット入り口も施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3～4回施設内で避難訓練が行われており、毎回火元の場所を変えたり、消防署の職員に指導をもらったりして取り組んでいる。また、近くのマンションの避難訓練には施設長が参加し、地域と連携した取り組みを行っている。		

長崎県 グループホーム秋桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、偏らないように工夫して職員が作成している。水分補給については時間を決めており、職員がこまめに声かけを行っている。		献立が偏らないよう工夫して職員が作成しているが、法人内の栄養士に時々アドバイスを受け、メニューの幅が出るよう取り組んでみてはどうだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が、木のぬくもりのある明るく落ち着いた雰囲気であり、居室やリビングには利用者が書いた絵を飾っている。ソファの配置等にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせる共用空間となるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や使い慣れたダンス、好みのもや趣味のものが持ち込まれており、それぞれに居心地のよい居室作りを行っている。		